

## 千曲市立戸倉上山田中学校



- (1) 学級数 21 学級
- (2) 児童数 男子 317 名 女子 320 名 計 637 名
- (3) 職員数 51 名
- (4) 学校紹介

<http://www.chikuma-ngn.ed.jp/~togamijh/>

本校は、千曲市の南部に位置する。平成 15 年 9 月の市町村合併による千曲市誕生に伴い、「千曲市立戸倉上山田中学校」に校名変更し現在を迎えている。学区は戸倉地区、上山田地区、更級地区、五加地区と千曲川をはさみ、広域となっている。校歌に歌われているように、「冠着山」「千曲川」「五里ヶ峯」と雄大な自然に囲まれた環境のなか教育活動を行っている。

本校の教育目標は、「努力  
友愛 責任」である。



努力：個人や仲間の夢の実現のために全力投球し続ける生徒  
友愛：他への思いやりと奉仕の心で、仲間とよく協調できる生徒  
責任：規則を守り、場を浄め、集団を高めようとする生徒

この 3 つの姿の具現をめざし、重点目標を、

- ① 「確かな学力」が身につく学習指導の推進
- ② 責任ある言動や「思いやりの心」の育成
- ③ 「地域とのかかわり」を深める活動の推進

として、日々の教育実践に励んでいる。

取り組みの一つとしては「生徒の発想やアイデアを活かし、生徒と教師が作り上げる戸上中の伝統」をコンセプトに掲げられた「プライド・ファイブ」がある。

- ① 日本一の応援 ② 元気あふれるあいさつと部活動
- ③ 完全無言清掃 ④ 心をそろえる ⑤ 地域に感謝

この 5 点を大切にしながら、戸上中で学んでよかったと振り返ることができる生徒と教師の姿を思い描きながら各活動に力を入れている。

### (5) 大会テーマの受けとめと研究のねらい

本校では、全校研究テーマを「わかる授業 楽しい学校」とし学校教育目標の具現に向けて以下のような生徒の姿をめざし、各教科領域で実践を通して研究を進めてきている。

#### 【目指す生徒像】

- ① 興味・関心をもって主体的に課題をつかみ、その課題に立ち向かい、粘り強く自らの力で解決しようとする生徒。「学ぶことの喜び」を実感し、「よりよい学び方」を身につける生徒
- ② 友と支え合い、友と学び合い、自分や集団の向上に努めようとする生徒。「よりよい人間関係の築き方」を身につける生徒
- ③ ものごとの本質を見極め、自らの発想や考えをもとに、創意・工夫し、学習により獲得した力を他に応用させ、新たな自己の高まりを求める生徒。「よい心」をもち、「よい判断」ができる生徒

そして、今年度の研究の重点を以下の 2 点とし取り組んでいる。

- ① 生徒が学ぶことに必要感をもったり、学ぶことのよさを実感したりして、学習にひたきり、魅力ある単元の開発と展開
- ② 自らの学びを確かなものにする自己評価のあり方

公開を予定している社会科では、一つの社会的事象との出会いから感じた感想や疑問をもとに、生徒自らが問題意識をもち、社会的事象の背景(原因や仕組み)を探ったり、他の社会的事象と関連させたりして主体的な追究ができる生徒の育成を目指している。また、そのような過程を通して、社会科を学習することの楽しさを感じながら、多面的・多角的に考察しようとする生徒の姿を思い描きながら実践

を積み重ねてきている。公開授業では視聴覚機器を有効に活用しながら、めざす生徒の姿に迫りたいと考えている。

## (6) 日常的な活用



### ○システムの概要

現在、コンピュータ室にデスクトップパソコン 42 台、職員専用デスクトップパソコン 46 台、職員共有ノートパソコン 5 台、その他に生徒が使用できるパソコンが 20 台配置されている。

### ○ネットワーク環境

職員室内は、有線LANで職員室メインサーバーに職員のパソコンがつながり、データの共有をしている。職員の情報漏洩がないよう、コンピュータ室のパソコンとはつながらないようになっている。また、各教室に有線LAN端末がある。

### ○プロジェクター、実物投影機

プロジェクター3台、実物投影機2台が配置されている。プロジェクターは、全校集会で、発表を行う教師、生徒が目的に応じて活用している。また、授業でも視覚的な効果をねらって利用している。

### ○デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ

学校用デジタルカメラは6台あり、教材研究や行事の記録に活用している。カメラ、ビデオカメラともに生徒への貸し出しも許可し、生徒会企画のお昼の放送番組制作や文化祭での企画ムービー制作に活用している。

### ○電子黒板

電子黒板は3台あり、理科室と音楽室に配置されているが、移動式なのでどの教室でも活用できるようになっている。各教科ごと、効果的な活用方法について研究中である。



## (7) 研究を推進してきたの現時点での課題

本校社会科研究テーマ「生徒が社会的事象を身近に感じながら、問題意識をもって意欲的に追究する社会科授業」にせまるために以下の2点を手だてと考え実践を積み重ねてきた。

- ① 生徒が、社会的事象を身近に感じるために、「もし、自分が〇〇だったら」といった立場でシミュレーションをすることを通して、楽しさを感じながら追究できるように単元展開を構想する。
- ② 生徒が出会った社会的事象の感想や疑問から学習問題を設定し、各自が必要とする資料を提示できるように準備する。

楽しさを感じながら追究を深める生徒の姿から、この2点が手だてとして有効であることがみえてきている。

一方で、生徒の必要とする資料と教師の用意した資料が、生徒の意識とややずれていたため、考えの根拠を効果的に得ることができない生徒の姿もみられた。生徒が考えの根拠としそうな資料を用意しておくことが、追究の深まりを支援することにつながると考え、授業構想している。

10月の更埴・長野市南部大会では、3年生の公民的分野でドナーカードを題材にした授業公開を計画している。ドナーカードについて知った生徒は、臓器移植について調べていく。様々な視点から調べた事柄を視聴覚機器を活用しながら発表し合う。自分や友達の調べた事柄から、自分ならドナーになるか、ならないかを自分なりの根拠をもって決め出す学習を通して、「新しい人権（自己決定権）」について考える授業を構想しているところである。そのなかで、視聴覚機器の活用の可能性を探っていきたい。